

「厚岸町で育む人」～ふるさと教育を考える④～

厚岸町はふるさと教育が盛んな町です。町内の学校では、総合的な学習の時間などで、実際に地域で体験活動をしたり、伝承活動や他地域との交流を図ったり、地域課題を見つけ解決に向けて追究したりするなど、特色ある教育活動を展開しています。また、教育委員会も生涯学習課が多彩な事業を展開しており、生涯を通じた芸術・文化・スポーツ活動がとても盛んな町です。人・もの・ことなどすべての教育資源のポテンシャルが非常に高い町ということです。

一方、「ふるさと教育の方向性が定まっていない」ことが課題としてあげられます。「何のためにふるさと教育を行うのか」「ふるさと教育でどのような力をつけるのか」「そもそも、ふるさと教育を通してどんな人を育てるのか」など、ふるさと教育の理念や全体像(目指すもの)が各学校に委ねられていて、教育委員会や学校が一体となったものがないのです。

そこで、教育委員会と学校が「どんな人を育てるのか」を共有し、同じ理念の下、同じ方向で教育活動や事業を展開していく必要があると考え、まずは、厚岸町で育む人を以下のように表しました。

厚岸町で育む人

恵み豊かな自然や多彩な産業

先人が紡いできた歴史や文化を有する

ここ厚岸で

多様な人たちとのかかわりの中で

自分を磨き学び育った子どもたちが

将来

ふるさとを担う人となり

また

どこにいてもふるさとを想う人となり

それぞれの地域で

豊かにたくましく自分らしく生きる人

そのために育てたい力を、「郷土愛の育成」「自己認識力の育成」「探究的に学ぶ力の育成」「持続可能な社会の創り手の育成」「国際感覚の育成」の5つの視点でまとめました。この5つの視点は、「ふるさと教育を考える⑤」で、もう少し詳しく記させていただきます。

令和8年7月

厚岸町教育委員会

教育長 滝川 敦善